

ロケット関連ニュース：台湾が戦略兵器として長距離巡航ミサイルを配備  
漢和防務評論 20181107(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

台湾軍は、大陸に対する戦略兵器として長距離巡航ミサイル雄ⅡE型を配備しつつあります。  
主たる攻撃目標は、当然ながら三峡ダムをはじめとする中国の戦略的重要施設であるようです。

台湾は戦略抑止力を強化しつつあり、雄ⅡE型巡航ミサイルの配備を開始した。三峡ダム（湖北省宜昌市三斗坪）は、台湾の巡航ミサイルで完全に破壊するのは不可能であるが、発電所、変電所は攻撃目標になりうる。また巨大な石油備蓄基地も攻撃目標になりうる。

**KDR 東京特電**：種々の情報を総合すると、台湾は、一部の長距離巡航ミサイルの配備を開始したようだ。機種は雄ⅡE型の可能性がもっとも高い。衛星写真を分析すると、今年3月、楊梅に2両の新型発射車と長さ7.3Mの発射コンテナを発見した。2両の発射車の間に装弾車がある。これは雄ⅡE型であろうか？

台湾の戦略ミサイル部隊791旅団（空軍所属）は、雄ⅡEの導入を開始した？この基地は、以前地对空ミサイル、ナイキの陣地であった。現在は、第791旅団641大隊の陣地である。未だその他のミサイルは配備されていない。

陣地全体は、相当大型化し、現在4個の格納庫があり、雄ⅡEの発射車はこの格納庫に入っている。今後はどの程度の数が配備されるか注目したい。台湾のアナリストの分析によると、今後は海上に配備される可能性がある。KIDD型大型ミサイル護衛艦が発射プラットホームになる。このことは、蔡英文総統が国防政策で戦略抑止力を強化していることを示している。雄ⅡEに関しては、台湾軍は、未だ公表しておらず、高度の機密となっている。791旅団641大隊に関しては、台湾の軍事専門家および軍事愛好者が、官方が公開した791旅団のシンボルマークであるロケットの図柄から推測した。

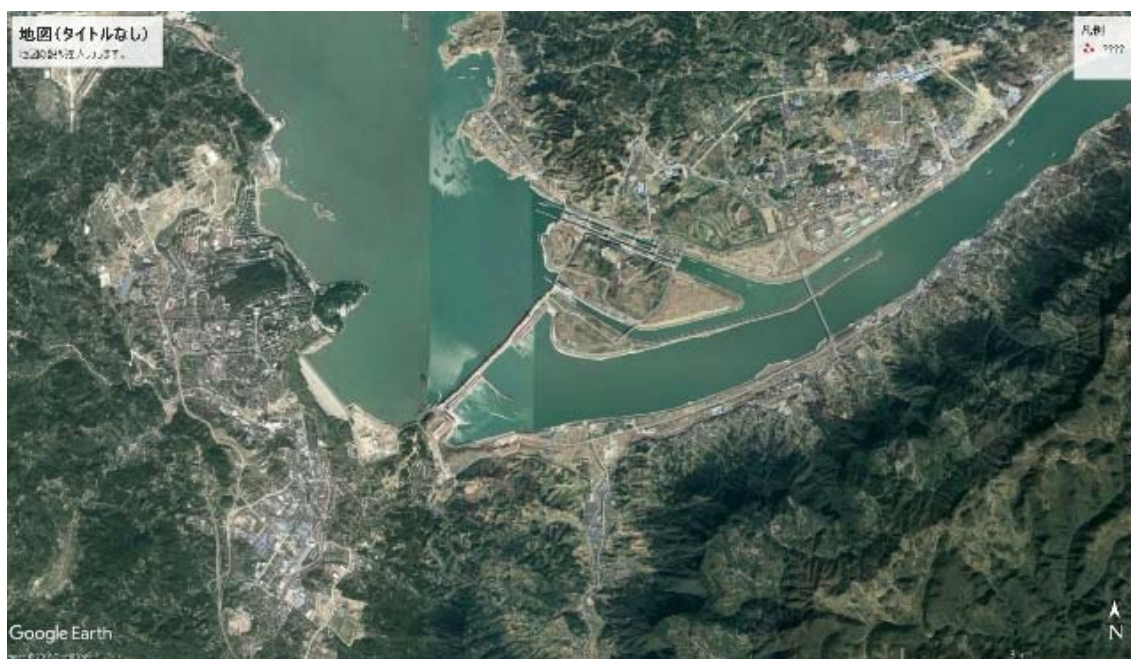
今回衛星写真から推定した発射車の大きさから見ると、雄ⅡEのおおよその大きさは、韓国のHYUNMOO-3シリーズ巡航ミサイルに近い。後者は：A、B、Cの型式があり、重量1.5トン、長さ7M、弾頭重量500KG、射程は、それぞれ早期型の500KM、1000KM、1500KMである。したがって雄ⅡEの射程は1000KM乃至1500KMに達する可能性がある。このことは、台湾軍が中国大陆に対し縦深的に戦略攻撃能力を有することを意味する。

雄ⅡEは、慣性航法及びGPS航法（民用版）を採用し、或いは地形追従方式を採用している可能性が極めて高い。これが現在台湾軍が保有する最も戦略的価値の高い攻撃兵器である。

射程1000KMで計算すると、福建省、浙江省、上海市、広東省、江西省の全域、江蘇省、広西省、湖南省、湖北省及び安徽省の一部の戦略目標が雄ⅡEの射程

内に入る。台湾の親しい軍事情報筋によると：雄ⅡE は、蔡英文政府が最も重視する戦略兵器であり、現在予算を増加し優先的に生産し、少なくとも 200 発以上生産されるという。このように見ると、台湾軍が最初に攻撃する中国大陸の戦略目標の数は、第一波で 200 個目標前後ということになる。

射程から考えると、上述地区のすべての原子力発電所、舟山付近の国家戦略石油備蓄基地、京九鉄道、いくつかの高速鉄道の橋梁、トンネル及び上海等の戦略目標は、全て雄ⅡE の射程内に入る。大型の国家石油備蓄基地に対する攻撃は、1 発か 2 発命中すれば、致命的な火災になり、舟山地区に強大な高気圧が発生し地域の気象を変化させる可能性がある。石油、天然ガスパイプラインに対する攻撃は、中国の経済ライフラインに対する有効な攻撃となる。中国ロケット軍の ICBM 発射基地への攻撃は、多くの放射能汚染を引き起こす可能性がある。3 個の H-6K 戦略爆撃機基地を含む重要な中国空軍基地は、この地区に集中している。上海や武漢に対する如何なる攻撃も中国の金融の崩壊をもたらす可能性がある。



三峡ダム (Google Earth)



葛洲ダム (Google Earth)

射程 1000KM では三峡ダムに達しない。しかしもし雄ⅡE が射程 1500KM になったならば、射程 1200KM 以上の三峡ダム、四川省、貴州省、山東省、海南島の一部は、雄ⅡE の射程に入る。海南島は中国海軍の空母、核潜水艦基地が集中している。雄ⅡE は容易に精密攻撃を実施し、軍港の洞窟の入口、核潜水艦を攻撃する。

三峡ダムの水門、ダム本体については、KDR がすでにその構造を分析した。鋼材の一部は日本から輸入したものだ。現在のダム構造から見ると、米軍の B-2 爆撃機が携行する 3 万ポンドの GBU-57 型 GPS 誘導爆弾のみがこれを破壊することができる。GBU-28 強化型 5000 ポンドレーザー誘導爆弾は、何度も反復攻撃すれば、ダムの水門に致命的な損傷を与えることができる。雄ⅡE の 500KG 弾頭では破壊することはできない。しかし、一旦三峡ダムに対して攻撃が行われたならば、政治、心理、経済に与える影響は大きい。

このほか葛洲ダム (三峡ダムから約 40KM 下流、湖北省宜昌市西陵区)、及びその他の大型水利施設は、雄ⅡE の攻撃目標になるであろう。

また、台湾メディアが何度も雄ⅡE で三峡ダムを攻撃することが可能であるとの強調していることから、台湾軍が三峡ダムを戦略目標に指定している可能性が極めて高い。三峡ダムは相当脆弱だ。たとえダムと水門が堅固であっても、中央指令センター、水力発電所が攻撃を受ければ、ダムはコントロール不能になる。中国に敵対するいかなる国家もこの点に気付いているはずだ。コソボ紛争中、発電所は米軍の重点攻撃目標であった。送電線に対する攻撃は石墨爆弾 (グラファイト爆弾) が採用された。後者の技術は、ハイテク技術ではない。中国はすでに生産しており、輸出もしている。台湾の中山科学院も開発する能力がある。三峡発電所は送電線の電柱が林立している。これは雄ⅡE の攻撃目標になる。

葛洲ダムへの攻撃は、極めて容易である。たとえ水門、ダム本体が攻撃を受けなくとも、中央指令センター、送電網、発電所は必ず雄ⅡEの精密攻撃を受ける。500KGの弾頭で葛洲ダムの水門を攻撃すると、武漢は水浸しになる。湖北省は中国鉄道網の大動脈の中核であり、重要な鉄道輸送力が麻痺する。

この他、雄ⅡEは1000乃至1500KM以内のその他のダムに対して類似の精密爆撃ができる。

三峡ダムの攻撃目標には次の目標が含まれる：32台の水力タービン、左岸に14台、右岸に12台、地下に6台ある。また電源設備がある。これらを破壊することは1000億キロワットの電源を破壊するに等しい。重慶市、湖北地区の華中電力供給網が重大な影響を受ける。このほか雄ⅡEの500KG高性能爆薬は、原子炉の隔壁を容易に貫通することができる。有事になる前に燃料棒を抽出していなければ、大面積の核汚染が起きる。ダムや脆弱な重要目標を詳細に研究すると、至るところに弱点がある。

したがって、中国のような経済構造が脆弱な国家や軍隊が、穏健な政策を放棄し、台湾を標的にした軍事演習を日常的に行っているのは、全く不可解である。

最後の問題は、雄ⅡEのグレードアップの問題である。世界各国の巡航ミサイルは、軽い燃料、軽い複合材料を使用することによって射程を1000KM、2000KMと延伸し最終的に2000KMに達している。同時にステルス処理がなされている。

北京は台湾から1800KMの距離にある。したがって、次の段階の開発計画にある雄ⅡD型は、北京が攻撃目標となる可能性がある。弾頭の開発に関して中山科学院は、多くの技術を保有している。現在すでに”萬劍”弾上に榴散弾、高性能爆薬弾頭等の開発が完了している。これらの弾頭は雄ⅡEに移植することができる。

實際上、台湾の長距離巡航ミサイル開発計画は相当複雑である。KDR記者が数回取材した際に、中山科学院の専門家は、次のように述べた：現在雄Ⅱ、雄Ⅲ対艦ミサイルを対地攻撃ミサイルに改修する技術が完成している。鍵は、軍の要求次第である。雄Ⅱ対艦ミサイルを対地攻撃巡航ミサイルに改修すると、射程は200KM乃至250KM以上に増加することができ、短距離目標攻撃に用いられる。雄Ⅲの射程も増加し、地上攻撃も可能だ。300KMを超える射程も完全に可能である。これらの計画は軍の要求次第であり、戦略的な考慮が必要である。技術の改良は、短期間で可能だ、と。

KDR記者は、中山科学院の内部展示室を見学したことがある。そこで複合材料の開発について、台湾は早期に開始していたことが分かった。技術水準は高い。

以上